

NGOから学ぶ！ アフリカで活動するNGOのマネジメント

第2回

人が全てだ！（人材確保と育成）

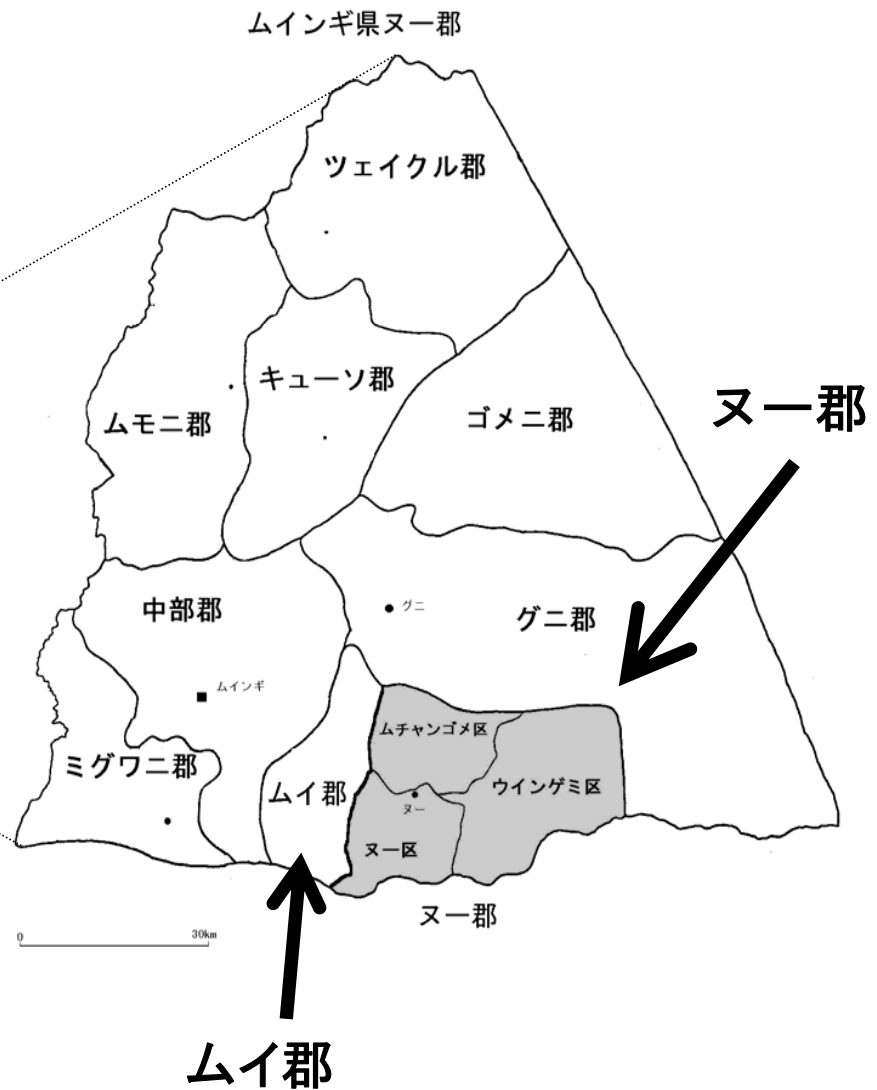
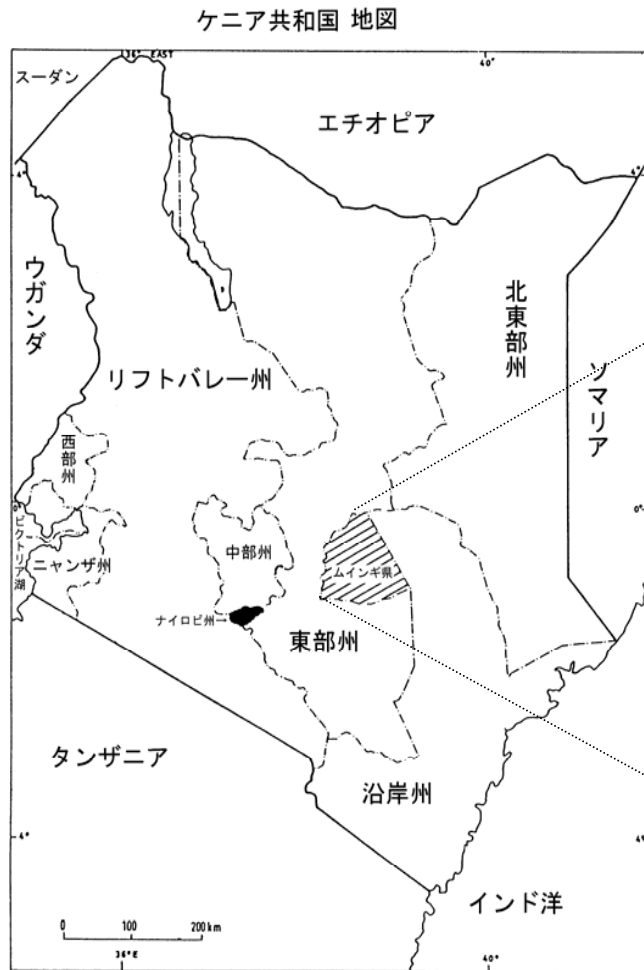
日時： 2006年6月30日（金） 18:30～21:00

場所： 台東区東上野1-20-6 丸幸ビル2F共用会議室

主催： (特活)アフリカ日本協議会(AJF)

発表者：永岡宏昌((特活)アフリカ地域開発市民の会(CanDo)代表)

ケニア共和国ムインギ県



CanDo概要 活動地

- ケニア共和国
 - 人口：2,869万人('99)
 - 面積：58万 km²
 - 多民族・多言語
 - 観光、紅茶、園芸等
 - 最近の話題
 - 政権交代('02.12)
 - 無償教育政策('03.1～)
 - エイズ対策が本格化('04)
- ヌー郡・ムイ郡
 - 人口：3.7万人('99)
 - 面積：1,694 km²
 - カンバ人・カンバ語
 - 半乾燥地・半農半牧畜
 - 特徴：
 - ムインギ県内の最貧地
 - 伝統呪術の重視
 - 一夫多妻を広範に維持
 - カウエット制度を維持

画像：活動地域の様子

CanDo: 沿革と資金

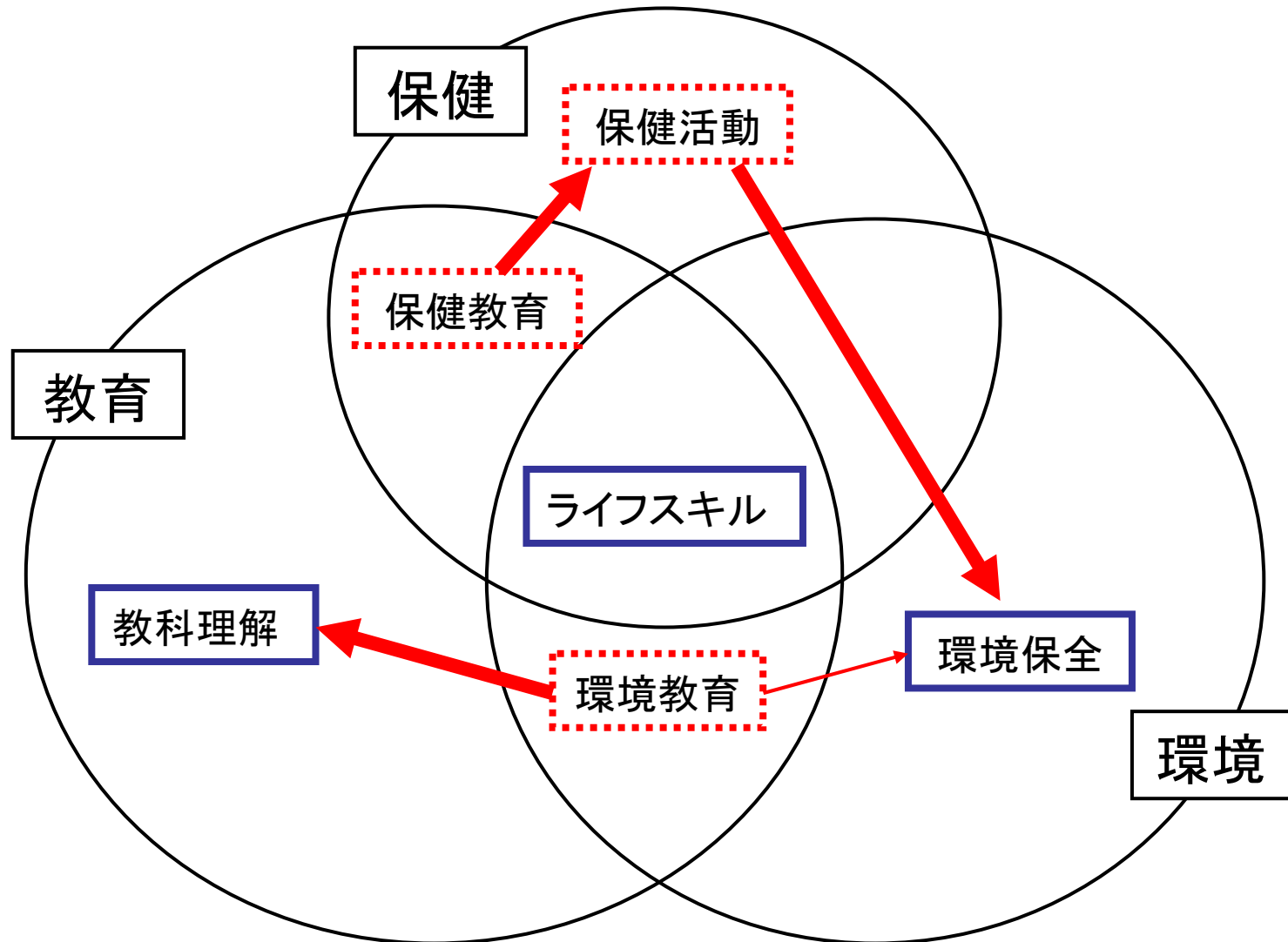
- 沿革:
 - 1997年9月: ケニアと日本で活動準備開始
 - 1998年1月: 任意団体として設立; ケニア・ムインギ県で活動開始
 - 1999年9月: ケニアでNGO登録; 11月: 日本でNPO法人化
- これまでの主な事業資金源:
 - ✓ JICA 草の根技術協力事業(パートナーシップ型)
 - ✓ 外務省 NGO事業補助金・日本NGO支援無償
 - ✓ 国際開発救援財団
 - ✓ 環境再生保全機構 地球環境基金
 - ✓ 立正佼成会 一食平和基金
 - ✓ ベルマーク教育助成財団
 - ✓ 日本国際協力システム

実施事業		ムイ郡	ヌー郡
教育	教科書配布	○	○
	教室建設・補修	○	○
	教員動機づけワークショップ	×	○
	エイズの教科主流化	×	○
	エイズ子ども発表会	×	○
幼児育成	幼稚園教師向け保健トレーニング	○	○
	幼稚園での保健活動形成	○	○
環境	小学校での環境活動・教育	×	○
保健	医療機関への協力	○	×
	母親向け保健トレーニング	○	○
	伝統助産婦トレーニング	○	×
	村の保健リーダーへのエイズトレーニング・コンドーム実演者養成	○	×
	小学校での住民対象のエイズ学習会	○	○

地域別 CanDo事業

○:実施事業
○:うちエイズ関連
×:実施予定なし

社会開発のなかの教育・保健・環境



CanDo:活動方針・原則

- 方針・原則：
 - ✓「豊かさ」は現地の人々が定義すべき
 - ✓地域の資源(モノ、ヒト、行政制度など)を最大限に活用し、外部からの投入を最小限にする
 - ✓事業実施プロセスでの地域住民の社会的能力向上を共通の課題とする
 - ✓教育・環境保全・保健分野を対象とし、分野横断的・包括的に取り組む
 - ✓当会は外部者として地域社会と関わる
 - ✓事業実施をとおして調査を行ない、事業変更や新規事業へ反映させる
 - ✓適切な事業終了を目指す

社会的能力向上

- CanDoは、現地での事業実施を通じて、地域住民が「社会的能力」を向上させることが重要と考えます。
- 社会的能力
 - ✓ 生活のための基礎的な知識・技能
 - ✓ 地域の社会問題・課題を論理的に分析する能力
 - ✓ 問題・課題の解決にむけたビジョンや実現可能な計画を形成する能力
 - ✓ 分析した問題や計画を社会として合意形成する能力
 - ✓ 計画に沿って社会内部および外部から資源(人・モノ・資金・情報)を調達する能力
 - ✓ 計画を実施する能力
 - ✓ 全ての過程を円滑な社会関係のなかで展開する能力

現地での事業実施体制

- ケニア人専門家
 - 専門技能に基づいてトレーニング計画や各種マニュアルを作成
 - 現地にて技術指導やファシリテーションの実施
- 現地スタッフ(カンバ人)
 - 日本人調整員へのカンバ語通訳
 - 住民の発言の分析・現地情報・住民の「常識」の伝達
- 日本人調整員+インターン
 - 活動原則・ドナー・現地状況を配慮した活動計画の策定とケニア人専門家との調整
 - 現地行政官・小学校校長との折衝・調整
 - ケニア人専門家の技術指導・ファシリテーションの監督

インターン・準スタッフ・スタッフの基準

①インターン

6ヶ月程度の期間、当会の事業に専従参加して、「アフリカの開発」について学び、自己の将来に役立てようとする意思があり、当会の事業実施の補佐を期待できること。

②準スタッフ

当会の事業に参加する意欲があり、特定の事業実施を担当することを期待できること。

③スタッフ

当会の活動理念・原則などについて理解し、特定の事業実施を担当でき、インターンへの指導ができ、かつ、当会の事業全体ならびに当会の運営への目配りが期待できること。

インターン

- アフリカの開発に将来も貢献していく意志をもっていること。
- その実現のためのキャリアパスとして活用してよい。
- インターンと当会との双方の利益になること。
- 6ヶ月間はインターン業務のみに専念する。
- 「学ぶ」「知ること」から始める。
 - 自分の「異なるモノサシ」を持ち込まない。
- 獲得目標：調整員としてケニア人専門家と現場に入って予定の業務をおこなって報告する。

インターンの現地での心得

- 現地は劇場であり、我々は役者
 - ✓日本人スタッフの立ち振る舞いや発言を模倣する
 - ✓自己の思い込みによる発言をしない
- 村人や現地スタッフから学ぶ
 - ✓様々な情報をえるよう努力する
 - ✓特に、過去の経緯について知るようにする
- 村人になるのではなく、あくまで外部者として
 - ✓個人的な「付き合い」をつくらない